

### 3章

#### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

①活字の究極的な重要性と力は、そのすぐれたイメージによってではなくて、抽象的な概念を伝達しうる力によって表される。ある人の受けた正規の教育がいかに集中的、または長期的なものであったとしても、もし抽象的な思考というものができなければ、ただ単に中途半端に教育を受けたことにすぎないのだ。

意志決定における最も肝要な要素とは、連続的思考である。その思考こそが抽象的思考が意味するものなのだ。抽象的な概念をある人の頭脳から他の人の頭脳に移すという点において、活字の速さと正確さに匹敵する伝達手段は他には存在しない。

もし哲学をなくしてしまう方法を探しているのなら、ぜひとも活字をなくしてしまおう。というのも活字は本質的に概念の領域だからだ。

②書物を読むことと所有することの間には、偶然でも付随的でもない、ある関係が存在する。概念に心を動かされた人々は、そのことに関して自分なりの言葉で、また自分の都合のよいときに考えたいものなのだ。

B.

#### 解答

(1) asked (me) whether [if] I had just been with Peter Brunet.

(2) a

(3) 「全訳」の下線部㉔参照。

#### 解説

(1) 伝達動詞は ask, 接続詞は whether [if] を用いる。ここで注意しなければならないのは、時制である。‘Have you just been with Peter Brunet?’ は asked にあわせて、過去完了形にしなければならない。したがって、asked (me) whether I had just been with Peter Brunet. となる。

(2) 直接話法で、現在完了形を用いた前文がヒント。

(3)

- if only briefly 「たとえ一時的であったとしても」
- inherit O from ～ 「～から O を受け継ぐ；O が～から遺伝する」
- intonation 「イントネーション；声の抑揚」
- manners of speech 「話し方」
- admired 「称賛されている」
- missed 「惜しまれている」

#### 全訳

大学生の頃、ある友達と食堂で話していた。彼はますます困惑して、おかしように私を見て、それから「さっきまでピーター・ブルネット先生と一緒にだったの？」と聞いた。どうして彼が知っているのか見当がつかなかったが、実際に私は先生と一緒にいたのである。ピーター・ブルネット先生はとても好かれていた。そして私は教室から急いで先生と一緒に出てきたのである。友達は笑って「そう思った。話し方が先生そっくりになっているよ。声なんか本当に先生そっくりだ。」と言った。㉔たとえ短い間であつたとしても、称賛されていて、今ではいけないことが非常に惜しまれている先生から、私はイントネーションと話し方を「受け継いだ」のである。

C.

#### 全訳

食堂でお酒を囲んで集まっている老人たちを、扇子を持っていない手で口元を隠して話しながら壁に沿って並んでいる婦人たちを、そして体を左右に揺らしたり、スキップしている若い踊り手を観察しながら、彼女は見ていた。その時、まるでこれらの馴染みのある人物たちが幽霊であるかのように感じられるほど、一瞬にして全てが大きく変わってしまったという思いが、彼女の頭に突然に、冷たく、ぎょっとするように浮かんた。

彼らは同じように見えるが、(以前とは) 違っているわ。何かしら？ 5 歳年を取ったということだけかしら？ 違うわ、時間の経過以上の何かだわ。㉕彼らから、彼らの世界から、何かが失われてしまった。5 年前には、安心感が彼らをすっぽりと、とても優しく包み込んでいたため、彼らはそれに気付いてさえいなかった。その庇護の下で、彼らは輝いていた(のに)。今ではそれがなくなってしまい、それと共に懐かしいわくわくする感じ、つまりは楽しくて興奮するような何かがすぐに起こりそうな懐かしい感じ、そう、彼らの生活様式の懐かしい魅力がなくなってしまったわ。

彼女は自分自身も変わってしまったことに気付いていたが、彼らの変わりようとは違っていた。そのため彼女は混乱していた。彼女は座って彼らを見つめ、㉖彼らの中では自分自身が異質な存在だと感じた。まるで自分が別世界から来て、彼らには理解できない言葉を話し、また自分も彼らの言葉を理解できないのではないかと思ってしまうほど自分が異質で孤独だと感じたのだ。

## 【2】

#### 解答例

北米の現代教育を無意味なものにしているのは、万人平等の民主主義の誤用である。現実の能力差を見ずに、能力の低い者を救うために最低の基準の教育課程を組むことによって、優秀な生徒を台無しにしている。(96 字)

#### 解説

##### 指針

論旨の展開は次の通りである。

第 1 文 : 北米の現代教育を無意味なものにしているのは、万人平等の民主主義の誤用である (主題)

第2・3文：普通の場合は万人平等を信じていない（主題のサポート）

第4文：万人平等という考えに忠実になろうとするばかり，優秀な生徒を犠牲にしている（結論）

第5～10文：優秀な子供よりも平均的な子供を基準にしている（結論のサポート）

要旨は「主題 ⇒ 主題のサポート ⇒ 結論 ⇒ 結論のサポート」という展開になっている。まとめる際は，第1文と第4文を中心にまとめるとよい。ただし，内容的に肉付けをするために，また字数に余裕があるので，第5～10文の内容に触れた方がよいだろう。その際に，‘excellence vs. not too bright’ ‘able pupils vs. the slow learner’ ‘the excellent boy vs. a dull or lazy child’の構造をふまえてまとめる。

#### 全訳

北アメリカにおける現代教育の殆どを無意味なものにしてしまっているのは，人は皆生まれながらに平等であるという民主主義的な信念を誤用しているだけのことにある。普通の人にとって重要なあらゆることにおいて，このことを信じている者はいない。すなわち，訓練を受けていないスポーツ選手が訓練を受けたスポーツ選手と互角である，言い換えれば，反射神経の鈍い少年がベーブ・ルースやテッド・ウィリアムズのように野球ができる，と普通の人とは東の間であっても信じることはない。しかし教育では，人は皆生まれながらに平等であると信じることは都合がよく，この世の誰もが思い出せる限りはずっと，このことが主要な問題になってきた。この民主主義的な考えに忠実であろうと，我々の学校は何年もの間，優秀な子供が犠牲にされている仕組みを支えてきた。あまり聡明でない知性の水準に，文字通りカリキュラムが左右されており，能力のある子供たちは習熟の遅い者たちのペースに学習を合わせるよう強いられている。このことは私が学校に通っていた時も既に同じであった。それ以来，新しい理論の洪水がこの仕組みになだれ込み，その結果，当時の進歩的な教師や親たちまでも脅かしたことであろう。教育哲学のなかでも，鈍くて怠惰な子供を優秀さを競う競争にさらすことは実に残酷なことでありと主張するものがあり，その結果，ABCのような評価を与えることは廃止されている。飲み込みの悪い子供は落第すると精神疾患になってしまうと主張されている。このような考えをもつ人々には，欲求不満によって優秀な子供が同じような結果に陥ってしまうということは，ちっとも思いつかないのである。

#### 注

- ℓ. 2 ◇ misapplication *n.* < misapply *vt.* ⇔ apply *vt.* 「～を適用する；応用する」
  - ◇ all men are created equal 「人は皆生まれながらにして平等である；人は皆平等に造られている」（アメリカ合衆国の独立宣言の言葉）
- ℓ. 3 ◇ matter *vi.* = be important 「重要である」
  - ◇ the common man does not (for an instant) believe …
    - instant = an extremely short period of time；a moment
- ℓ. 4 ◇ fighter *n.* 「スポーツ選手」
  - ◇ or *conj.* 「すなわち；言い換えれば」
- ℓ. 7 ◇ be true to ～ 「～に忠実である」
- ℓ. 9 ◇ literally *adv.* 「文字どおりに」 < literal *adj.* 「文字の」
- ℓ. 11 ◇ ～ has invaded the system with results which would have horrified

- would have done : 過去の事柄に対する現在の推量
- ℓ. 13 ◇ expose ~ to ... 「～を…にさらす」
- ℓ. 15 ◇ turn ~ into ... 「～を…に変える」
- ◇ It never occurs to people who ~ this that ... 「…ということを～人が思い付くことはない」
- occur *vi.* 「ふと浮かぶ」

### 【3】

#### ポイント

冷戦下の1960年代、アメリカは「第2のキューバ」の出現を阻止するために、ラテンアメリカ諸国に対し、内政干渉を繰り返した。チリやアルゼンチン、ブラジル、ウルグアイなどアメリカを後ろ盾に資本主義経済を選択した第3世界諸国は、必ずしも民主的な政府ではなく、軍事政権であったが、フリードマンの理想とする徹底した自由主義経済改革には、皮肉にも自由ではなく弾圧により民衆をコントロールしていく軍事政権の親和性が高かった。こうした「資本主義」諸国で、思想対立する人々の拷問・連れ去りなどが組織的に行われていたのは裏歴史である。

#### 解答

- (1) exploit
- (2) 「全訳」の下線部⑥参照。
- (3) ① a facilitated      ② c shock treatments    ③ e kind  
④ d inequality      ⑤ b through
- (4) a

#### 解説

- (1) まずは Friedman first learned how to ( ㉠ ) ~ . という形に注目。how to ( ㉠ ) は動詞 learn の目的語になる〈疑問詞＋不定詞〉の表現。よってカッコ内には動詞の原形が入るとわかるだろう。

次に第一段落の関連部分をまとめると、

- ①フリードマンはニューオーリンズのための論文を新聞に寄稿した。
- ②それはニューオーリンズというアメリカの中規模都市の教育制度を民営化することを提唱していた。
- ③それは彼の市場原理主義にのっとりた資本主義を推し進めるためにニューオーリンズの危機的状況につけ込むことにはかならなかった。
- ④フリードマンの生前最後となったこの提案は、終始一貫して自由主義経済を提唱しつづけた彼らしい提案であった。
- くらいになるだろう。

これをふまえて、再び㉠を含む文に戻る。文全体の意味は、「フリードマンは1970年代半ばに大規模なショックや危機に ( ㉠ ) する方法を学んだ。」なので、第一段落内の exploit を入れると文法的にも意味的にも文が成り立つ。

(2)

- ◇ Not only ~ but also … の呼応表現を捉える。
- ◇ Not only という否定の副詞語句が強調のために文頭に移動し、それがきっかけとなり、節内の S + V が疑問文の語順に倒置したことを捉える。
- ◇ be in a state of ~ 「～の状態に (ある)」
- ◇ following ~ 「～の後で」
- ◇ coup 「クーデター (武力政変)」 フランス語の coup d'etat から。
- ◇ be traumatized 「精神的な外傷を与えられた；心に傷を負った；トラウマを抱えた」
- ◇ hyperinflation 「ハイパーインフレーション；超インフレーション」

(3) 空所のある文を、文たらしめる要素を考え、品詞を絞り込み、前段落までで述べられていたことの論述展開から、まっとうな意味を構成し得る選択肢を選ぶ。

- ① 動詞の過去形、文の V であり目的語に the adjustment を置いて文意が成立するもの。
- ② with his own の後なのだから、原則として名詞。
- ③ a different と of の間なので名詞を想定。
- ④ How can this ( ④ ) be maintained 空所には単数の名詞が入ると想定。この文の主語となるもの。
- ⑤ どこから始めてもよいが、まずここに前置詞 through を埋めてしまって if 以下が「電気ショックの衝撃を利用せずして」と読めることに気が付くと、他の空所も埋まりやすくなるだろう。

(4) a 「フリードマンには主要な政治指導者、影響力を持った経済学者、決定的な行政上の権力を持つ人々といった、多くの著明な信奉者がいた。」

本文1段落目に書いてある内容と合致→○

b 「いわゆるシカゴ学派とは、フリードマンが一連の経済学の講義を行った日曜学校である。」

本文にはこのようなことは書かれていない。本文中の school は「学派」の意味で「学校」という意味ではない→×

c 「北・中南米地域の中規模都市の公立校の多くが、民営化されると、シカゴ学派革命と呼ばれることがある。」

「シカゴ学派革命」とは、当時フリードマンが教鞭をとっていたシカゴ大学で学んだ経済学者によって遂行された、市場原理主義を掲げた改革（具体的には「減税、貿易自由化、各種業務の民営化、社会支出の削減、規制緩和など」(本文2段落目)のこと。単なる学校の民営化だけではシカゴ学派革命とは呼ばれない。→×

d 「1970年代にピノチェトは拷問によってもたらされた痛みの影響下で、チリを社会主義的政策の確立における主導国にした。」

この構文では、拷問による痛みの影響下にあったのはピノチェトという意になってしまうが、実際には拷問を行ったのがピノチェト(本文3段落目)。それ以前に、ピノチェトがなしたのは自由主義経済改革である。→×

e 「1970年代半ばにピノチェトがフリードマンの助言に従って以来、どこかの政府が安上がりな改革を求める際には、その政府のリーダーはそれまでよりもよりシヨッ

キングな計画を好んだ。」

本文は経済改革を題材にしているのであって economical（安上がり）な改革の話ではない。→×

全訳

フリードマンが書いたニューオーリンズのための新聞の論評は結局彼の最後の提案となった。彼は1年もたたずに2006年11月16日に94歳で亡くなった。アメリカの中規模都市の学校制度を民営化することなどは、彼にとってはもしかしたらささやかな関心事だったように思えるかもしれない。なにしろ、過去半世紀における最も影響力のあった経済学者として称えられ、彼を信奉する者たちの中には、複数のアメリカ合衆国大統領、英国首相、ロシアの新興企業家たち、ポーランドの財務大臣、第三世界の独裁者、中国共産党書記長、国際通貨基金（IMF）の理事、アメリカ連邦準備制度理事会（FRB）の過去の議長3名がいたのだから。それにしても、彼の市場原理主義にのっとりた資本主義を推し進めるためにニューオーリンズの危機的状況につけ込み利益をあげるという提言は、彼の最盛期に自分自身を「日曜日に教会で説教をする昔ながらの牧師」と表現した、5フィート2インチ（157cm）の身長に尽きることのない活力をみなぎらせていた大学教授のこの世に決別を告げる言葉として奇妙にふさわしくもあった。

フリードマンが、大規模なショックや危機につけ込み利益をあげるやり方を最初に身に付けたのは1970年代半ばのことで、彼がチリの独裁者アウグスト・ピノチェト將軍の経済顧問を務めた時のことだ。⑥ピノチェトの暴力的なクーデターのあとで、チリ国民はショック状態にあっただけでなく、国は強烈なハイパーインフレーションに大打撃を受けていた。フリードマンはピノチェトに矢継ぎ早に経済改革を強行するよう進言した。減税、貿易自由化、各種業務の民営化、社会支出の削減、規制緩和などである。結果、チリの人々は公立学校がバウチャーを財政基盤とする私立学校に取って代わられるのを目にすることとなった。チリの経済改革は地球上で今までに試みられたもっとも苛烈な資本主義改革で、非常に多くのピノチェト下の経済学者がシカゴ大学でフリードマンのもとで学んでいたため「シカゴ学派」革命として知られるようになった。経済の転換をスピーディーに、突然、広範囲に敢行すれば、人々の中に「変化への適応を促進する」心理反応を引き起こすだろうとフリードマンは予想していた。彼はこの痛みを伴う戦術を、経済的「ショック治療」と呼んだ。それ以来の数十年間、政府が徹底した自由市場政策を強行するときはいつでも、一気呵成のショック治療、いわば「ショック療法」こそが方法として選ばれてきたのだ。

ピノチェトはまた彼独自のショック治療を使って変化への適応を促進した。これらの治療は政権の多くの拷問室内で、資本主義改革を邪魔するのではないかと思われた人々の精根尽き果てた肉体にもたらされた。ラテンアメリカの多くの人々は、多くの人々を貧困に追い込む経済ショックと、違う形の社会があってもいいと信じた何十万人の人々を罰した拷問の蔓延との間に直接的なつながりがあることを見た。ウルグアイの作家エデュアルド・ガレアーノは世に問うた。まさしく「電気ショックの衝撃を利用せずして、こんな不平等がまかり通り返り続けられようか」と。

【4】

解答

- (1) d      (2) c      (3) d      (4) b      (5) c  
(6) a      (7) c      (8) d      (9) c      (10) d

Script

CD 2

W : Today we are pleased to have as our guest Dr. Gary Beringer one of the most prominent environmental activists in the United States. Good afternoon, Dr. Beringer. Thank you for agreeing to appear on our show. You became a powerful voice for protecting the environment years before most of us ever heard the words  
5 “environmentalist” or “green.” What led you to become an environmental activist?

M : I joined the environmental movement because of an issue that dramatically — and alarmingly — demonstrates the connection between science and social action: nuclear weapons. These weapons, created by a small elite of physicists and chemists, now remain a threat to all of human society and the natural environment.

10 World War II was barely over when the United States and the Soviet Union — not content with the wartime bombs that killed hundreds of thousands of people in Japan — began testing new and ever more powerful ones, creating tremendous amounts of radioactivity that spread through the air worldwide and descended as fallout. Many atomic scientists, alarmed by the consequences of their work during the  
15 war, protested. But the tests continued. They were done essentially in secret. The scant information coming from the Atomic Energy Commission informed the public that the radiation produced was confined to the test area and, in any case, “harmless.” The commission had concluded that the radioactive debris would remain in the stratosphere long enough to become harmless.

20 W : We now know that their conclusion was wrong. How could such an error have been made?

M : The AEC included a virtual army of highly skilled scientists. Although ingenious

enough to design nuclear bombs of increasingly devastating power, they somehow failed to notice that rainfall washes suspended material out of the air, or that children  
25 drink milk and concentrate iodine in their growing thyroids. I don't believe that the Atomic Energy Commission's failure was due to anything as complex as a cover-up, but the real reason, though simpler, was just as damaging. The AEC scientists were just so narrowly focused on making the United States a nuclear superpower that they failed to recognize facts — even widely known ones — that were outside their limited  
30 field of vision.

W : How did the truth about the dangers of the testing finally come out?

M : After 1954, when some of the secret reports were made available to the public, independent scientists were able to study the fallout data that AEC scientists had gathered but failed to understand. The new studies proved that they had greatly  
35 underestimated the dangers. For example, E.B. Lewis, a scientist at the California Institute of Technology, showed that iodine 131, which is contained in nuclear fallout, could cause cancer in children. This radioactive element would fall out of the atmosphere in rain. The rainwater would be then be taken up by grasses eaten by cows, which finally passed on the iodine 131 to children through their milk. Other  
40 scientists followed with reports on other dangers.

W : But, in the end, wasn't it public protest that stopped the tests?

M : Yes, but it was the independent scientists, outside the Atomic Energy Commission, who understood their obligation to society; it was they who met society's need for the truth. When the Committee for Nuclear Information was organized in 1958, we brought  
45 scientists and concerned citizens together. We showed the public how splitting a few pounds of atoms could turn something as mild as milk into a deadly global poison.

W : Let me interrupt you here for a moment, Doctor. We have to pause for a commercial break. Then I'd like to talk about your more recent activities. [593 words]

W：今日は嬉しいことに、米国で最も名高い環境活動家の1人である Gary Beringer 博士をゲストにお招きしております。こんにちは、Beringer 博士。この番組への出演をご快諾いただきありがとうございます。博士は、私たちの多くが「環境保護主義者」とか「グリーン」といった言葉を聞くようになった何年も前から、環境保護の強力な唱道者になっていらっしゃいますね。環境活動家になったきっかけは何だったのですか。

M：私が環境運動に参加するようになったのは、科学と社会的な活動のつながりを劇的に、そして警鐘を鳴らすように示すあるひとつの問題、つまり核兵器のためです。こうした兵器は物理学者と化学者の少数のエリート集団によって作られ、現在人間社会全体、それに自然環境にとって脅威であり続けています。

第2次世界大戦が終わるとすぐに、非常に多くの日本の人々を殺した戦時中の爆弾にも満足していなかった米国とソビエト連邦が、新たに、以前にもまして強力な爆弾の実験を始めました。爆弾の実験は、大気を通じて世界中に拡散する大量の放射能を産み出し、そしてそれは放射性降下物として落下しました。原子力学者たちの多くは、戦時中の自分たちの仕事をもたらした結果に驚き、抗議しました。それでも実験は継続されました。実験は、まったく秘密裏に行われました。原子力委員会から出されるわずかなかりの情報が、一般の人々に知らせたのは、発生される放射能は実験地域内に限られるし、いずれにしろ「無害である」ということでした。委員会は、放射性粒子は、無害化するのに十分な期間、成層圏にとどまるであろうという結論を出していました。

W：現在では、その結論が誤りであったことが分かっています。どうしてそのような間違いが起こってしまったのでしょうか？

M：AEC には、非常に高いスキルをもつ大勢の科学者がいたのです。破壊力がどんどん大きくなる核兵器を考案するほど頭がよかったのに、彼らはどういうわけか、雨が浮遊物質を大気中から洗い流してしまうこととか、子どもがミルクを飲んで発達中の甲状腺にヨードを蓄積してしまうことには気づかなかったのです。私は原子力委員会の不手際は、隠蔽といった複雑なものによるとは考えていません。しかし、本当の理由は、より単純なわけですが、とにかく被害をもたらすものだったわけです。AEC の科学者たちは、米国を核保有大国とするということにばかり注目していたために、事実、非常に広く知られたものであっても、彼らの限られた視野の外にある事実を認識できなかったのです。

W：実験の危険性に関する事実は最終的にどのように明らかにされたのですか？

M：1954 年以降、秘密の報告書の一部が一般の人々に公開された時、独立系の科学者たちが、AEC の科学者たちが集めていたけれども理解できていなかった降下物のデータを調べられるようになりました。新たな調査により、彼らが危険性をかなり過小評価していたことが証明されました。例えば、カリフォルニア工科大学の科学者 E.B. Lewis は、放射性降下物に含まれるヨード 131 が、子どもにガンを引き起こす恐れがあることを明らかにしました。この放射性物質は雨に混じって上空から落ちて出てくるものです。雨水は牛が食べる草に取り込まれ、ヨード 131 はミルクを通じて最終的に子どもたちに受け渡されることになります。他の科学者たちもこれに続き、その他の危険性に関する報告を出しました。

W：でも、最後に実験を停止させたのは市民の抗議ではありませんでしたか。

M：そうです。けれども原子力委員会の外にいる独立系の科学者たち、社会に対する自らの責任を自覚していた彼らこそ、事実を求める社会のニーズを満たしたのです。1958年に核情報に関する委員会が組織されたとき、私たちは科学者と不安を感じている市民を引き合わせました。私たちは市民に、数ポンドの原子を分裂させることが、ミルクのようにマイルドなものを、世界中の致死の毒にしていまいかねないことを示しました。

W：ここで少し割り込ませてください、博士。コマーシャルの為、一旦お休みします。その後で、博士のより最近の活動についてお話ししたいと思います。

【5】

A.

解答

- (1) **a** but **b** as well as **c** not, as well  
 (2) **b** Every [Each] time  
 (3) **b** unless

解説

- (1) 「～ばかりでなく…も」の表し方には、  
**a** not only [just ; merely ; simply ; alone] ～ but (also) …  
**b** … as well as ～  
**c** not merely ～ but … as well [too]  
 などがあるが、not only ～ but (also) … が not ～ but … (～でなくて…) の形だとわかっていれば、only 以外にも just, merely, simply, alone などでも使えることがわかるはず。  
 (2) 「S' が V' する度に、S は V する」の表し方には、  
 Every [Each] time S' + V', S + V.  
 Whenever S' + V', S + V  
 などがある。また、この文は She *never* coughed *without* feeling a good deal of pain. のように書き換えることもできる。  
 (3) 「～である。ただし、…の場合だけは(例外的に)～でない」という論理構造を表すのに、英語では「～ unless …」という形を用いる。なお、**b** の that 節の would, worked は仮定法ではなく、she *will* fail the exam unless she *works* hard の will, works が時制の一致を受けたもの。

B.

ポイント

接続詞 that はさまざまな意味で用いられる。それぞれの英文中で使用される that の用法を考えながら解いていくこと。

解答・解説

- (1) **d** 「私が直接出席できるようにこの会議の日程を変更してくれませんか。」  
 so that S may ～ (S が～するために) の so が省略されたもの。  
 (2) **a** 「その申し出を拒否したいということを明らかにせねばならない。」  
 ○ make it clear that S V 「S V を明らかにする」  
 it は形式目的語で that 節が実質目的語となる。  
**b** や **e** も入りそうであるが、他の小問を合わせて考えると、**a** が正解になる。  
 (3) **e** 「月がとても明るかったので懐中電灯を使わなくても彼の顔が見えた。」  
 so ～ that … 構文。  
 (4) **b** 「あの衝撃的な事件が昨年起きたのは、私達が今立っている場所だった。」  
 It was ～ that … の強調構文で、It was と that に挟まれた語句が強調される。  
 (5) **c** 「よいカウンセラーを探す際には注意することが必要だ。」  
 that you be careful ～ は仮定法現在。つまり、「必要・重要」の形容詞や「提案・要求」の

動詞の後に続くものとする。

## 【6】

### ポイント

接続詞と言っても、等位接続詞と従位接続詞、順接や逆接、時や条件を表す接続詞など多種多様なものを学習してきたと思うが、ここでは、それらの知識を簡単に見直しておきたい。

### 解答・解説

(1) if 「明日の朝彼は家にいるかどうか聞いてください。」

if (whether) S V で「S V かどうかということ」という名詞節をつくる。「もし～なら」という意味ではない（これは副詞節の場合である）。

(2) that [because] 「彼の成功の理由は、あらゆる努力をしたということだ。」

本来、‘理由 (reason)’ が主語である以上、論理的に考えて (S = C とすると) 補語に because 節が来るのはおかしいとされていたが、最近では because 節を許容する傾向が強い。

(3) Suppose 「もしあなたが10億円持っていたら、それで何をするつもりですか。」

If S V = Suppose S V = Supposing S V = Providing S V = Provided S V とされるが、仮定法の条件節としても使われるのは If S V と Suppose S V と Supposing S V のみ。また、Provide S V や Supposed S V という形は存在しないので注意。

(4) before 「冷めないうちに食べてくださいよ。」

before S V は「S が V する前に」という意味から転じて「S が V しないうちに」と訳せる場合があるので注意。

(5) that 「その女優が結婚したという知らせは本当のはずがない。」

○ the news that S V 「S V という知らせ」

この that は同格の接続詞。The actress got married. が完全な文になっていることに注意。

(6) before 「彼はまもなく日本に来るでしょう。」

○ It will not be long before S V 「まもなく S V」

before S V の部分は「時・条件を表す副詞節」であるから現在時制になることに注意。

(7) so that 「その傷がちゃんと癒えるように治療を続けなければなりません。」

文意を考えて、so that S may [can; will] ～ (S が V するために、S が V するように) という目的の副詞節にする。

(8) that 「彼女はたまたま家にいなかった。」

○ It (so) happens that SV. 「たまたま S が V のようなことが起こる。」

(9) and 「彼女は皿を洗ってそれを乾かしました。」

dried them の them が指しているものを考えると the dishes しかない。つまり dried の主語は She と考えるべきである。

(10) but 「確かに彼は格好いいが、心優しいとは思いません。」

○ It is true ～, but … 「確かに～だがしかし…」

【7】

ポイント

等位接続詞は何と何をつなげているのかを常に考える態度が必要である。また、接続詞として転用される語句については出来る限り覚えてしまうこと。

解答・解説

- (1) c「母とは、最初の教師であり、また最も重要な教師であり続ける。」

等位接続詞の and が何と何を接続しているかを考える。is と remains をつなげている。remind は「～を思い出させる」という意味で不適。

○ remain C「Cのままている」

- (2) d「もしミュンヘンでの乗り継ぎを厭わなければ今日の午後にウイーンに着くことができる。」

○ provided S V = if S V (【6】(3)の解説参照。)

○ as far as S V「SがVする限り」《範囲を限定》

○ unless S V「SがVでない限り」

○ A as well as B「B同様にAも」

- (3) d「車を走らせようとした途端、エンジンがどこかおかしいことが分かった。」

○ the moment S V = as soon as S V「SがVするや否や」

although や even if は文法的には入るが、意味から考えて「最も適当」ではない。

however (しかしながら) は接続副詞と呼ばれ、単独で文をつなげることは出来ない。

- (4) b「ジェーンはかなり不正直だ。それゆえ、彼女の言うことには気をつけたほうがよい。」

意味を考えると順接でつなげるべきであるから therefore (それゆえ) を入れる。なお、本問の選択肢 (however や meanwhile など) はいずれも厳密には接続詞ではない (接続副詞と言われる)。この英文で接続詞の働きをしているのは ; (semicolon) である。

○ meanwhile「その間に；他方では」

○ moreover「さらに；その上」

- (5) d「知っての通り、自分の面倒を見られない限り、他の誰かの面倒を見られるはずはない。」

文章の意味を考えると unless 以外はおかしい。

○ unless S V「SがVしない限り」

- (6) a「『合理的な』や『驚かせるような』などの大半の形容詞は、それが修飾する名詞の性質や特徴という観点で段階づけられるが、他方、『死んだ』とか『完全な』といういくつかの形容詞は、そういう段階づけはできない。」

while (しかしながら；他方で) という接続詞に着目して解く。while の前後で対照的な事柄が述べられていることに気がつけばよい。なお、absolutely は副詞のため、この空所には入らない。

- (7) c「あなたがた皆に加われたら大変嬉しいのですが、ただ時間が無いのです。」

単に that では意味が通らない。only には接続詞の用法があり、only (that) S V で「ただ (しかしながら), S V」という意味になるのは入試では盲点の1つ。

- (8) d「今やインターネットが必要不可欠なインフラとして機能しているので、ウェブの

スペシャリストは、かつてないほど多くのことができる。」

○ now (that) S V 「今やSはVなので、SがVする現在では」

なお、Once (that) S V (いったんSがVすれば) も入らないわけではないが、now に比べると、最も適当な選択肢とは言いがたい。

(9) c 「消費者が主にデザインで製品を選ぶ限り、よりよいデザインを求めた競争が続いていくだろう。」

as long as S V も as far as S V も「SがVする限り」と訳せるが、前者は‘条件 (SがVならば)’を表すのに対して、後者は「SがVする範囲内で」の意味になる。

cf. As far as the eye can see, there is nothing but snow.

(見渡す限り雪しかない。)

(10) d 「彼の能力が大変向上したので、どんなに困難であっても、彼自身で平易でスムーズにならないものはなくなっていた。」

so ~ that …構文の so greatly が文頭に出た形であることに気がつけばよい。

○ render O C 「OをCの状態にする」

(11) d 「彼は7月に脳梗塞<sup>のうこうそく</sup>を患って以来、リハビリを受けてきている。」

○ since S V 「①SがVして以来 ②SはVなので」

○ in case S V 「①もしSがVなら (= if S V) ②SがVするといけないので」

○ for fear (that) S V 「SがVするといけないので」

○ undergo 「～を経験する」

○ rehabilitation 「リハビリ」

○ stroke 「脳梗塞；脳卒中」

(12) b 「需要が高まるにしたがって、物価も上昇するだろう。」

according to + 名詞 (～によると、～にしたがって) はよく知られているが、according as S V (SがVするにしたがって) という形も覚えておく。

(13) d 「彼は刑務所から逃亡するや否や、再び逮捕された。」

(= As soon as he escaped from the prison, he was arrested again.)

これまでに何回も出てきた形である。

○ scarcely [hardly] ~ when [before] … 「～するや否や…」

(14) c 「オリビアはジェイコブに涙を見られないように顔を背けた。」

○ lest (for fear) S should ~ 「Sが～するといけないので、Sが～しないように」

○ so that S V 「《目的》SがVするために 《結果》そのためSがVする」

○ whether S V 「《名詞節》SがVするかどうかということ 《副詞節》SがVであろうとなかろうと」

(15) c 「知ってる？デイビッドは運転できないのに赤いスポーツカーを買ったんだって。」

even if S V と even though S V は異なる。even if は条件を強めて「仮に～だとしても」の意味だが、even though は譲歩を強めて「実際には～だけれども」という意味になる。本問では「実際に運転が出来ない」ことを強めているから後者を選ぶべき。